

協議の段階で、名称選考委員会には一般市民からの公募委員を入れて協議するべきではなかったか、民意を反映するシステムが必要だ、等の意見が出されたので付記しておく。

②提言に至った経過

市名選定における問題点をふまえた上で、現在の市名「山陽小野田市」を再検討するか否かについて委員全員の意見を述べていただいた。個々の意見は多岐に渡るため、論点を整理して項目毎に意見の集約を行い、提言に至った経過を明らかにする。



▲白井市長（右）に提言書を提出する「市の名称」部会の三輪座長（左）と村上副座長（中）

1) 「山陽小野田市」という市名について

→大多数がふさわしい名前ではないという意見であった。将来に残る名前ではない、変えろとすれば「小野田」「厚狭」、山陽と小野田二つの名前が付いているといつまでも一緒になれないという意見があった。また、少数ではあるが「山陽小野田はふさわしい名前」「合併協議会で労力をかけたものを尊重すべき」「長い名前はよく目立つ」という意見もあった。

ふさわしい名前ではない（16人） ふさわしい名前である（3人）

2) 市名の再検討を行うことについて

→再検討については財政危機の市政と民間に配慮して、経費がかかる（市役所の経費が約8,400万円、住民投票に約2,700万円、その他民間の経費）ためにあきらめざるを得ないという意見が多かった。これも他に多くの考え方があるため列記する。

- いずれ来る広域合併の時に考えればよい。
- 時期を失ってしまった。名前に慣れてきた。
- 名前よりも実をとる。

また、少数意見であるが再検討賛成の意見は、

- 長い名前は不便である。費用がかかっても変えたい。
- 市の名前は重要。費用は考え方で長い目で見ると大きな負担とはいえない。
- 実よりも名をとる。

さらに、市名の再検討を行って新市名を決めるためには住民投票が不可欠（市としての考え）とされているが、今回のような新設合併（いわゆる対等合併）においては市名という重要な事項を決定する方法の選択についても困難を極めることが予想されるという意見もあった。

- 「山陽小野田市」の名称のままでよい（4人）
- 「山陽小野田市」の名称をやむを得ない（12人）
- 「山陽小野田市」の名称を変更すべき（3人）

結果、市名の再検討を行わないが16人、再検討を行うが3人となった。

（委員20人：欠席1人）

【次ページにつづく】